

日々の暮らしはどうなるの？

あなたらしいセックスライフのために

HIV陽性と分かってから、もしかするとあなたの心の中には、セックスへの抵抗感や自責の気持ちが起こっているかもしれません。それはHIV陽性になった多くの人が体験したことでもあります。あなたが以前のようにセックスを楽しむ気持ちになるまで、そのことを無理に変える必要もないでしょう。けれどもHIV陽性のためにセックスを避けることも、今までの考え方を必要も基本的にはありません。

これまでよりもHIVや他の性感染症について注意した「より安全なセックス（セーフターセックス）」をしていくことが必要です。

セックスは、相手とのコミュニケーションでもあります。お互いを尊重したコミュニケーションを持つためにも、どんなことが起こりうるかを知り、自分と相

手をお互いを守るためにセーフターセックスを行うことで、セックスを楽しむ気持ちを取り戻すことができるでしょう。

セーフターセックスとは どういうことですか？

セーフターセックスの基本は、精液、^{ちっ}膣分泌液や血液を体の中に取り込まないようにすることです。先走り液にも少量ですがウイルスが含まれたり、精液が混ざることがあります。粘膜や傷口から血液や精液、^{ちっ}膣分泌液が入り込まないように、コンドームを始めから最後まできちんと使うことが、より安全なセックスといえるでしょう。

コンドームを使わない^{ちっ}膣性交や肛門性交（アナルセックス）の場合、性器・直腸の粘膜や傷口と、精液や^{ちっ}膣分泌液など

が直接接触するので感染の可能性があります。また肛門は出血しやすく、血液が粘膜や傷口から侵入する可能性があります。口腔性交（フェラチオ*1やクニニリングス*2）も、粘膜が精液や膣分泌液に直接接触するので感染の可能性があります。アニリングス*3の場合は、出血がなくてもA型肝炎やアメーバ赤痢などに感染する可能性があります。

また、お酒や薬物などは気持ちを高揚させ、安全なセックスの選択を困難にする場合も少なくありません。あなたのセックススタイルを振り返って、トータルにセーフターセックスを考えることが大切です。

- *1 ペニスを口で愛撫すること
- *2 女性の性器を口で愛撫すること
- *3 肛門を口で愛撫すること

セーフターセックスについて 話し合しましょう

HIVや性感染症について正しい情報を得てパートナーとセーフターセックスについて話し合うことができれば、より安全な二人のスタイルを工夫できるでしょう。

また、具体的な心配については、主治医・看護師・専門相談員等に相談したり、NGO・NPOや保健所などの相談機関での電話相談を利用する方法もあります。（P30「相談窓口」参照）

コンドームを使う時の注意点

コンドームは精液や膣分泌液と触れる

のを避けるだけでなく、セックスの際に粘膜にできる細かな傷を防ぐことでも、HIVの感染を予防しています。コンドームはセックスの最初から使うことが大切です。

ワセリンなどの油性潤滑剤を使うとコンドームの強度が劣化して破れやすくなることがあります。

セーフターセックスの メリットはなんですか？

セーフターセックスをすることで、あなたがタイプの異なるHIVに重複感染したり、他の性感染症に感染することを避けることができます。また相手への感染を避けることができます。

あなたにとってセーフターセックスが 大切な理由

免疫が低下している状態で新たに性感染症に感染すると、治りにくかったり、重症になることがあります。

異なるタイプのHIVに重複感染すると、薬が効きにくくなる危険性も考えられています。特に、薬剤耐性*1のあるHIVに感染すると治療がとて難しくなります。

相手にとってセーフターセックスが 大切な理由

相手の人がHIVに感染することなく性行為を行うことができます。

相手の人がHIVに感染している場合も、お互いがタイプの異なるHIVに重複感染

日々の暮らしはどのような？
あなたらしいセックスライフのために



する可能性を低くしてくれます。

HIV陽性者同士でも セーフアークセックスが大切な理由

上記のように、セーフアークセックスをするメリットはお互いにあるため、HIV陽性者同士の場合もセーフアークセックスが大切です。

*1 ウイルスや細菌などの病原体が薬剤に対して抵抗力を持ち、これらの薬剤が効かない、あるいは効きにくくなる状態を指します。

セックスの際に、相手にHIV陽性について話した方がよいでしょうか？

より安全にセックスを行うには相手の協力も必要です。だれにどこまで伝えるかは、あなた自身の気持ちを整理して考えてみてください。HIV陽性であることを伝える事は勇気のいることです。いつ、どのように伝えたらよいかということには、決まった答えがあるわけではありません。しかし、あなたの気持ちが落ち着いていない時に伝えると、正しい情報もあなたの気持ちも十分に伝わらないかもしれません。

HIV陽性の人たちをサポートしているNGO・NPO等の相談機関（P38参照）で、他の人たちがどのようにしているかを相談することも役に立つかもしれません。必要な場合は、主治医や看護師、専門相談員にも相談してみましょう。

決まった相手のいる人は、時期をみてHIV陽性であることについて話し合える

とよいでしょう。一緒にこの冊子を読むなど資料を見ながら話をするのも一つの方法です。感染を伝えた上でお互いを尊重しあえる関係を築いていくことは、きっとあなた自身にとってこれからの大きな力になるでしょう。（P20「伝える？ 伝えない？」参照）

子どもが欲しいのですが…

HIV陽性であっても、子どもをもうけて育児をしている人達は少なくありません。

女性がHIV陽性の場合、男性が陽性の場合、それぞれパートナーや子どもへの感染予防の方法が異なります。いずれにしても妊娠・出産については、服薬の状況、体調を考えてHIV治療の専門医に早い時期から相談しましょう。その上であなたとあなたのパートナーが一緒に考えて決めていくことが大切です。

母子感染予防

女性がHIV陽性の場合、妊娠中から母子感染を予防する適切な対策をとっていれば感染率は1～2%といわれています。母子感染予防の対策は、①妊娠中の服薬、②帝王切開、③授乳を避けるなどです。どのような方法をとるかは、あなたの妊娠の時期やHIVのウイルス量、抗HIV薬を始めているかどうかなどを検討することが必要です。妊娠・出産については、HIV治療の専門医に相談をしながら計画しましょう。

私と主人が告知を受けたのは二年前、新婚生活を始めた頃です。

まず、主人が人間ドックである数値の異常が指摘され、念のためHIVの検査を受けたところ陽性でした。頭が真っ白になっていたのを覚えています。主人を失い一人ぼっちになる、TVで見たエイズ患者のようにやせ細り悲しい最期を迎える主人を看取らなければならないのかと思うと、辛くて数日間泣いていました。

数日後に出た私の結果も陽性でした。先生は「残念ですが奥さんも…」とおっしゃいましたが、ショックではなく、むしろホッとしていました。私の結果待ちの数日間、主人は日常生活や夫婦生活に気を遣っていて、その隔たりのほうが悲しかったからです。

エイズ＝死のイメージしか持っていなかった無知な私たちは、先生をはじめ病院のスタッフの方々から治療方法など詳しい説明を受け、病気に対する恐怖心もしだいに薄れていきました。薬さえ問題なく飲み続けていれば他の病気と変わりないと今は思っています。

昨年、娘を授かって子育ての毎日を送っているのですが、娘のことには神経質になります。主人は服薬を始め、私はウイルス量が多くないので服薬はしていませんが、共に元気に過ごしています。しかし、この先何が起るかわかりません。正直少しこわいです。

成人式で着物を来ている女の子を見ると、娘にはどんな着物がいいかななどと20年も先のことを想像します。女同士二人きりで旅行にも行きたいとか、孫の世話もやきたいとか。でも、子供の成長と共に重い現実を告げなければならない時もいずれ来ます。いつ、どのように説明するか、娘はどう受け止めてくれるのだろう…。

何年か先には、第二子を作ろうかなと密かに考えています。一度くらい自分のお乳を飲ませてあげてみたい…。いつの日かこの病気が不治の病ではなくなる事を信じ、いつまでも家族仲良く元気で楽しく暮らせるよう頑張っていこうと思います。

Neige (ネージュ) (女性/30代/主婦/陽性判明から2年)

